

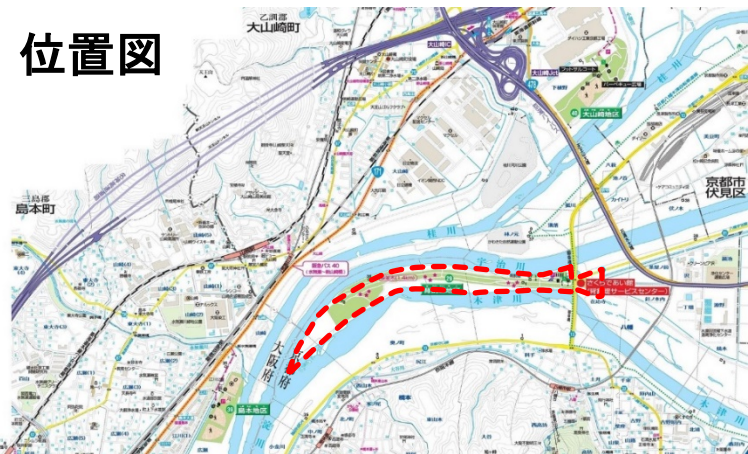
# 背割堤地区の整備

令和5年3月

淀川河川事務所

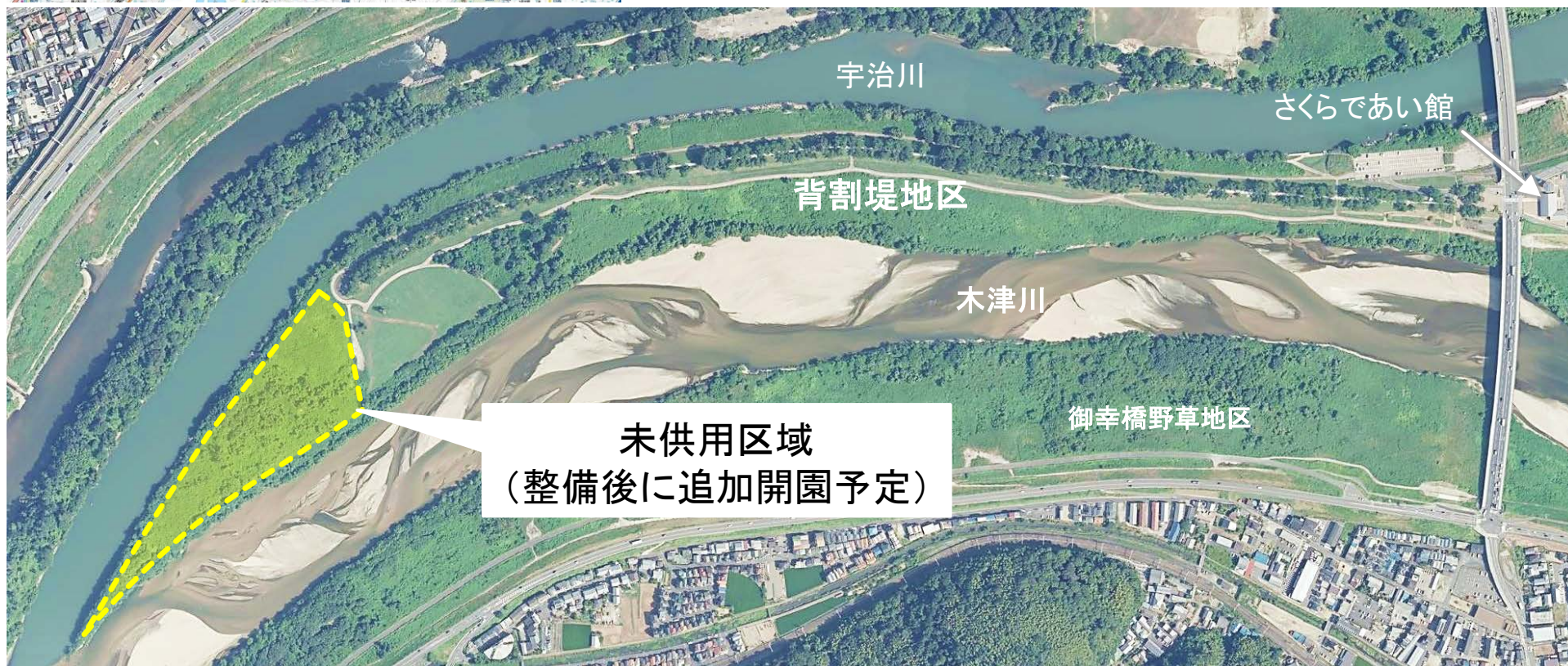
# 背割堤地区の位置

## 位置図



- 背割堤地区の先端部に未供用区域が存在。
- 地区公園整備計画はH23年に策定済み。

- 先端部について環境調査、整備方針の検討を行った結果、先端部の整備内容を一部変更したい。

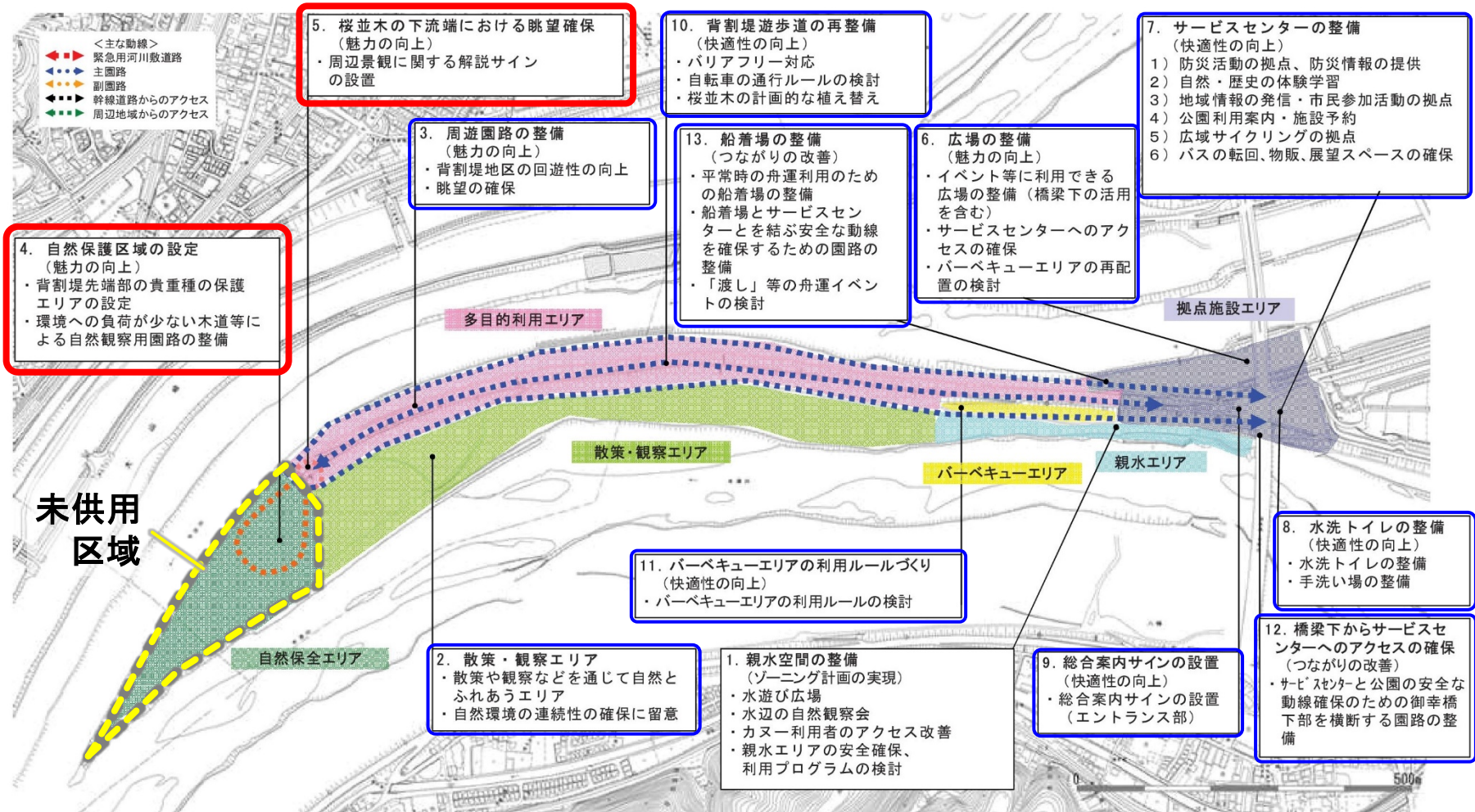


## 背割堤地区の整備状況

整備済

未着手

### ■ 5. 背割堤地区公園整備計画図



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。  
 ※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

# 背割堤先端部の現状

## 環境調査の実施

背割堤先端部の整備内容の検討にあたり、現在の自然環境（動植物、景観資源等）の調査を実施（調査日：令和3年10月）



## 環境調査の結果

- ・令和3年の調査結果では、重要種のホソバイラクサや、クサノオウ等の分布状況は小規模であった。
- ・公園整備計画では「クサノオウ群落の保護エリア」としていたが、この調査結果を踏まえ、自然を観察しながら先端部までを散策する園路整備が可能と考える。

### 【ホソバイラクサ】

- ◆自然保全エリアと多目的利用エリアに群生する。
- ◆京都府レッドデータブックで要注目種に指定される。  
京都府内での生育は稀とされるが<sup>1)</sup>、淀川沿いには広く分布している。



### 【クサノオウ】

- ◆自然保全エリアに散生するが、一部では小規模の群生もみられる。
- ◆平成20年ごろまでは、自然保全エリアの林内で大規模な群生がみられたが\*  
現在は規模が縮小している。これは、植生遷移の進行によるものと考えられる。

※：平成23年度地域協議会資料による



## 背割堤先端部の特性

- ・背割堤地区先端部から、宇治川と木津川が合流する景観を楽しむニーズはある。
- ・背割堤地区の遊歩道(桜並木)は片道約1.4kmの長さがあるため、先端部まで足を伸ばす利用者は少ない。
- ・さくらであい館は非常に多くのサイクリストが利用しており、サイクリストを先端部まで誘導出来れば、良好な休憩スポットとなる可能性は高い。
- ・最先端部は宇治川と木津川が合流する景観が体験できるエリアであり、カヌー・SUPなどの(到着)拠点として有用なエリアである。

## 基本方針(案)

- ・背割堤先端部の自然環境を観察することができ、木津川と宇治川が合流する特色ある景観を楽しめる場を設ける。
- ・さくらであい館を利用しているサイクリストを先端部に誘導し、快適な休憩エリアを提供する。
- ・カヌー等による水面利用のための拠点整備を行う。

# 背割堤先端部の整備方針

## 整備案(変更案)

### 水面利用との連携

- ・カヌー、SUP、花見船等との連携に配慮

### 休憩スペースの確保

- ・イベント時等にキッチンカーが置ける休憩スペース
- ・サイクリストの休憩スペース

植物群落  
(位置は参考)

### 自然観察路の整備

- ・先端部の自然を観察しつつ、先端までアプローチできる園路
- ・自転車の通行にも配慮

### 三川合流部らしい景観を楽しめる拠点の整備

- ・宇治川と木津川の合流部を眺望できる、ランドマーク的なスポットの整備
- ・水面利用の接続スポットの整備

※自然観察路や植物群落の位置はイメージ

